

原村商工業振興審議会 会議録

令和2年5月8日（金）

原村役場 講堂

午前9時～午前11時

出席

委員(7名) 松下浩史、宮坂早苗、小平春仁、
山崎義夫、小平恒夫、長田秀夫
秋山静男、篠原勝美

事務局 清水課長、菊池係長、両角

1. 開 会 松下副会長

2. あいさつ 小平恒夫 会長

3. 会議事項 議長は小平恒夫 会長

1) 新型コロナウイルス感染症の影響アンケート結果の報告
アンケート結果の報告 事務局

2) 新型コロナウイルス感染症緊急経済対策 資料4 事務局
事務局より説明

議 長：質疑はあるか。

委員A：危機関連保証認定について説明してほしい

事務局：市町村から認定された事業者はセーフティネット保証とは別に、100%の保証を受けることが可能。また通常の制度資金より有利に借りることができる。

議 長：他にあるか。

委員B：飲食店の売上確保に向けた支援に関しては、1事業者につき10万円で、見込みは10件なのか。

事務局：そうです。

委員B：長野県が実施する飲食・サービス等新型コロナウイルス対策応援資金とは別で併用可能か。

事務局：県の対象から外れた者を対象とする

委員B：飲食・サービス等新型コロナウイルス対策応援資金の案内はどのようにしているのか。

事務局：村の事業者では使いづらいのではないかと村で判断。問い合わせ等があれば対応する。今回の村で行う事業は、より簡単なものを考案。県の対象外者に

対応していく。

委員A：地域応援商品券について、商品券は明記外の業種に使えるようにならないか。観光業と農業者の人材マッチング事業については村内の農家で当てはまる様な人は少ないのではないか。外国人実習生に限らず人手不足の農家に県内事業者で循環させるのはどうか

事務局：商品券については花卉の直販は追加予定、それ以外の追加は目的の消費先へ流れていかないことを危惧し外してある。村内の要望を聞きつつ具体的な部分をこれから決めていく。

委員C：新型コロナウイルス特別経営対策資金について 融資対象者が1年以上元金の返済がなされた者となっているが想定外の事態のため難しい人もいる、緩和できないか。

事務局：近隣の市町村に合わせた。条件は外す方向で制度設計を見直す。

委員D：テイクアウト&デリバリー情報サイト立ち上げは、商工会でも行っているが周知が難しいので連携してはどうか。

事務局：わかりました。

委員B：宿泊業のこれからについてコロナウイルス等が長期化した時にクラウドファンディングなどでは即時的な救済が望めない。

事務局：緊急的な対処は、足りないとは思いますが協力金 30 万、持続化給付金を活用してもらおう。観光連盟では上記の情報発信している。限られた予算の中で事業を展開していこうと思う。

委員B：状況が長期化、悪化した時は臨機応変に対応してほしい。

委員D：工業の方は遅れて影響が来る、資金繰りの問題はある。

1%でも落ちたら経営がもたない、少しでも支給という形で援助がほしい。

事務局：わかりました。

委員A：利子補給は全額補償等、継続的な支援が求められるのでは。

事務局：国の資金繰り制度を補う形で県の、村の制度がある。

最終的に村の制度を使ってもらおう形で村の制度設計をしている。

委員A：それで十分な補償となっている認識なのか

事務局：そうです。

3)原村企業チャレンジ補助金交付事業について

Q：以前あった補助事業の報告は？

事務局：要綱に3年間の報告となっていたので昨年度から報告をいただいた。
今後は成果の発表の場を設けていきたい。

Q：いままで全体で何件交付したのか

事務局：19 件になる。

4)その他

4. 開 会 …松下副会長